



●モデルは煙突前の給水湯め器やランボード側面に帯の装飾が無い復活当初の姿を模しています。主灯が点灯し、副灯は非点灯ながらレンズをはめ込んでいます。また、239号機の黒地ナンバープレートと「SL 銀河」のヘッドマークが付属する他、写真のダミーカブラー交換用として、重連運転用のアーノルドカブラーと自連形TNカブラー、そして解放テコを別パーツで用意しています。さらに、復活運転に際して改められた、大型のスノーブローを取り付けています。



●スポーク構造の先台車、動輪軸心部、シリンダー、ロッド類、コンプレッサーなど、新たに製作した各部により、このモデルでも下回りを見応えあるものとしています。また、ボイラー側面では、デフレクター（除煙板）からキャブ（運転室）までのディテールを可能な限り再現、金属線使用のハンドレールは取り付け済みとしています。



●金色の逆止弁、汽笛、安全弁2本、そして発電機は別部品を取り付け、ボイラー上面を実感的に見せています。密閉式のキャブは側窓が開いた状態とし、内側には乗務員の肘掛も再現しています。また、屋根上では、明かり取りを開閉可能とし、その横の信号炎管は別パーツを付属しています。茶色の窓枠、金色の札差、白い各種標記類は印刷しています。



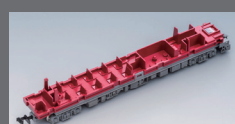
●タンダー（炭水車）は「SL 銀河」運転に向け、改造設置された重油タンクと移設された給水口を再現。また、点灯式のヘッドライトは大型のLP403形を取り付けた姿を模し、テールライトは非点灯ながらレンズを入れて実感的に見せています。また、写真のアーノルドカブラー交換用として、新たに製作したタンダー用のTNカブラーを付属しています。



●先頭車のキハ143-701（左）とキハ142-701（右）は、「ON-OFFスイッチ」付きのヘッドテールライトの点灯に白色LEDを使用。カラプリズムによりヘッドライトは電球色に近い色で、テールライトは赤色で点灯します。また、両車の運転台側にはボディマウント式密自連形TNカブラー（SP-グレー）を装備し、C58 239との連結の際に使用するカブラーアダプターの他、運転台屋根上に取り付ける信号炎管、無線アンテナ、ホイッスルカブラーを付属しています。なお、モーター車（キハ143-701）に備わる速度調整機構は、連結面側貫通路にある速度可変ダイヤルで調整を行い、そのための操作バーを用意しています。



●モデルは色調の異なるブルーの車体に描かれた、「銀河鉄道の夜」の物語に登場する星座や動物を、細密な印刷で仕上げています。加えて、車体側面のロゴマーク、行先サボ、車体番号、号数表示、ATS標記、所属標記も印刷し、ドア鞆摺りとドアレールには銀色を入れています。写真上からキハ143-701、キハ144-701、キハ144-702、キハ142-701の各車。



●インテリアの一例として、写真のキハ142-701では運転台（写真右側）側から「月と星のミュージアム」、丸椅子が置かれたプラネタリウム、シートに続き、デッキ横のギャラリーを再現、その他の各車でも可能な限り立体的に作り込み、モデルをより実感的に見せています。



C58形蒸気機関車(239号機)



キハ141系(SL 銀河用客車)4両セット

東日本大震災の復興支援と地域活性化を目的に、この6月までJR東日本釜石線を走った「SL 銀河」。同列車に使用されたC58形蒸気機関車は、普通旅客列車・貨物列車用として、1938（昭和13）年から1947（昭和22）年にかけて、427両が製造された1C1（プレーリー）形の中型機で、1940（昭和15）年製造の239号機がその任に当たりました。同機は東北地区で長年活躍した後、1972（昭和47）年に廃車となって盛岡市内の公園に保存され、2014（平成26）年に復活を遂げています。また、「SL 銀河」の旅客車となるキハ141系は、釜石線の勾配区間で蒸気機関車と協調運転を行うために、JR北海道から移ってきた4両編成のディーゼルカーで、両先頭車両に走行用エンジンと付帯する機器を搭載、走行用エンジンを持たない中間車2両にディーゼル発電機を装備していました。また、その内外は岩手県出身の詩人で作家でもあった宮沢賢治の代表作、「銀河鉄道の夜」をモチーフに大きく改められていました。

トミックスでは惜しまれつつも、この6月に運転を終えた「SL 銀河」のけん引機C58 239と、旅客車のキハ141系を新たに製作、同時にリリースいたします。ハイグレード仕様のC58形は、走行用のフライホイール付きモーターをボイラー内に納めながらも、可能な限りファインスケールに近付けた設計としています。また、キハ141系は実車と同じくC58形との協調運転が行えるよう、一方の先頭車にM-13モーター使用のフライホイール付き動力ユニットを搭載、C58形との速度調整機構を備えています。さらに、4両それぞれの車体側面の装飾と、各車のインテリアを実感的に再現しています。なお、C58 239は通過カーブ半径が280mm以上となっています。

C58形

蒸気機関車(239号機)

キハ141系

SL 銀河用客車

- JR C58形蒸気機関車(239号機)
＜2009＞予価¥17,600(税込) 12月発売予定
- JR キハ141系旅客車(SL 銀河用客車)セット(4両)
＜98522＞予価¥22,660(税込) 12月発売予定

JR東日本商品化許諾済